

笛吹市男女共同参画都市宣言解説

笛吹市男女共同参画都市宣言

～認め合い 男女(とも)に奏でるハーモニー～

タイトル解説

笛吹市の男女共同参画宣言であることを明確にしました。

サブタイトルとして、市民から寄せられたキャッチフレーズの中から、笛吹市の男女共同参画を推進していく上で、最も理念が合致するものを選びました。

市の名前『笛吹』とハーモニーが呼応すると考え、市と市民が響き合い協調し、住みやすい市を創りたいという願いを込めました。

本文の構成・表記について

第2次笛吹市男女共同参画プラン“輝け男女 笛吹プラン”の重点目標の中では特に、「家庭・職場・地域・推進体制」に焦点をあてました。

「わたしたちは、…つくります。」という表現に統一したのは、それを目指し、目標として、築いていきたいという思いを込めたからです。

なお、読み上げるときは、各項目の数字の「1」を「ひとつ」と読むこととします。

「宣言文前文」

わたしたち笛吹市民は、甲斐の国千年の都、古くから、甲斐の国の中心として栄えた歴史あるまち、豊かな自然に恵まれ、桃・ぶどう日本一のまち、温泉と観光のまちを誇りにしています。

“わたしらしく、あなたらしく生きる”を合言葉に、自立した男女が互いに尊重し合い、社会の対等な構成員として責任をもって活躍でき、子どもたちに輝く未来を託すことができる笛吹市を築くため、『男女共同参画都市』を宣言します。

宣言文前文解説

わたしたちの笛吹市は、土偶の出土数が全国有数の釈迦堂遺跡をはじめ、岡・鉾子塚古墳、寺本廃寺、国分(僧)寺、国分尼寺など、古代史研究に欠くことのできない史跡が数多く保存されています。

深い溪谷美から始まり、市内を貫通する清流笛吹川の豊かな景観、広大な扇状地に産出する桃・ぶどう、昭和30年代突如湧出した天与の温泉とここを訪れる多くの観光客、まさにきらめきのわが故郷であります。

わたしたちは、男女を問わず一人ひとり個性を持っています。「わたしらしく、あなたらしく生きる」とは、そういう個性を持ったわたしたちが、等しく尊重され、自分らしく輝いて生きるということです。

「宣言文」

1 わたしたちは、家族一人ひとりが性別により役割を固定されることなく、互いを認め協力し合う明るい家庭をつくります。

解説

社会の最小単位である家庭においては、男女が“家族”という集団に埋没することなく、一人ひとりの自立し

た人間として認められ、尊重されなければなりません。このことは、個人の尊厳・人権尊重の理念として、憲法にも、男女共同参画社会基本法にも規定されています。「家事・育児は女性の仕事」「男は外で働き家族を支える」という男女の性別により役割を固定するのではなく、家族だれもが、出来る仕事を進んで分担し、認め合ってこそ、生きがいのある明るい家庭が築かれます。

「宣言文」

1 わたしたちは、男女が平等で、個人としての能力や機会が公平に活かされる働く環境をつくります。

解説

笛吹市の産業を支えているのは、すべての市民です。この宣言文では、会社だけではなく、農業や自営業、学校などすべての働く場面を含むという意味で『働く環境』としました。

「男女が平等で、個人としての能力や機会が公平に活かされる」というのは、男女が差別なく、共に平等に扱われ、もてる能力の発揮に生きがいをもって働いていけるような環境をつくりたいという願いを込めたものです。

女性の登用を積極的に行うという施策を地域で実現するためには、市や事業者のより一層の理解と協力が求められます。国も女性の登用を進めています。市民一人ひとりが、自らの道は自ら拓くという気概をもって、自らの個性・能力を発揮することが大切です。

「宣言文」

1 わたしたちは、物事を決める場に男女が共に参画し、地域の一員としての役割を果たせる地域(まち)をつくります。

解説

地域社会には、物事を決めねばならない場が数多くあります。地域の役職に女性が就きにくい現状をふまえて、女性の意見が反映される地域づくり、つまり女性が地域活動に参画できることが大切だと考えました。

地域には、社会的性別に基づく考え方が根強く残り、物事の決定過程においても、男女差別があります。女性たちの中には、こうした考えに不満を持ちながらも積極的に反論せず現状に埋没している状況もあります。改善が迫られています。

一人ひとりが、地域住民の一員として、自らの力を高め、能力を発揮し、自分らしい生き方ができる社会を、自らの責任でつくっていくことが大切です。

「宣言文」

1 わたしたちは、市と市民がともに手を携え、協働し、暮らしやすい世界(まち)をつくります。

解説

男女共同参画の推進には、市と市民の協働が不可欠です(第2次笛吹市男女共同参画プラン“輝け男女 笛吹プラン” 基本目標Ⅴ)。わたしたち市民一人ひとりが持つ能力と行政とが、深い相互理解にたって、互いを認め合い、尊重しながら手を携えていくことが肝要です。

どうすれば暮らしやすいまちが創れるでしょうか。

相互に学習を重ね、積極的に意見交換して、自信の持てる活動を展開することで、より豊かな効果が期待できるのではないのでしょうか。これらを更なる活動の原点に据え、広く男女平等の世界を目指し前進します。